

築地市場の豊洲移転について

滄溟会研修会用

2018年6月23日（月）
東京都水産物卸売業者協会
専務理事 浦和栄助

築地市場の概要

・取扱数量（平成29年実績）

水産物	407,653トン／年 1,544トン／日
青果物	262,015トン／年 989トン／日

・取扱金額（平成29年実績）

水産物	4,532億円／年 17.2億円／日
青果物	880億円／年 3.3億円／日

・入場者

人員	約42,000人
車両	約19,000台

・施設規模

敷地面積	230,836m ²
建物延べ面積	285,476m ²

・開場年月日

昭和10年2月11日

築地市場の概要

関係業者数 (平成30年4月末現在)

・卸売業者

水産部

7社

青果部

3社

・仲卸業者

水産部

535業者

青果部

96業者

・売買参加者

水産部

293業者

青果部

601業者

・関連事業者

流通補完業者

20業者

物販・飲食業者

107業者

その他

21業者

合計 1,683事業者!

豊洲新市場への移転の必要性

1. 施設の老朽化

昭和10年の開業 創業80年

⇒部分改修工事では間に合わない

2. 施設構造の変化

開業時～鉄道輸送 プラットホーム

現状～トラックによる搬入搬出 ⇒物流の錯綜

3. 衛生・品質管理の必要性

開放型の構造上、温度管理が不十分・風雨等の影響を受けやすい。

4. 施設の過密・狭隘化

買い出し車両の駐車スペース・荷捌きスペースが大幅に不足しており、物流作業が非効率

築地市場開場当初の写真 昭和10年



東京都提供

新市場の東京都コンセプト ①

- 都民の食生活の安定を確保する
多種多様な品目を大量に集荷、生産者・実需者ニーズの調整によるリスク分散
- 効率的な物流の確保
搬入→出荷までの一貫した物流システムの構築
 - 場内荷役の共同化
 - 物流管理システム
 - 大口荷さばき場・転配送センター
- 食の安全・安心の確保
閉鎖型施設・高床式・バース式
コールドチェーンの確保・トレサビリティ

新市場の東京都コンセプト ②

- 顧客サービスの充実

加工パッケージ施設・商品情報提供

- 環境への配慮

廃棄物リサイクル施設・太陽光発電・屋上緑化

- にぎわいの創出

千客万来施設 → 新しい観光拠点

豊洲市場街区イメージ

豊洲市場イメージパース図

6街区 水産仲卸売場棟

5街区 青果棟

7街区 水産卸売場棟

豊洲市場の概要

水産仲卸売場棟

主な用途

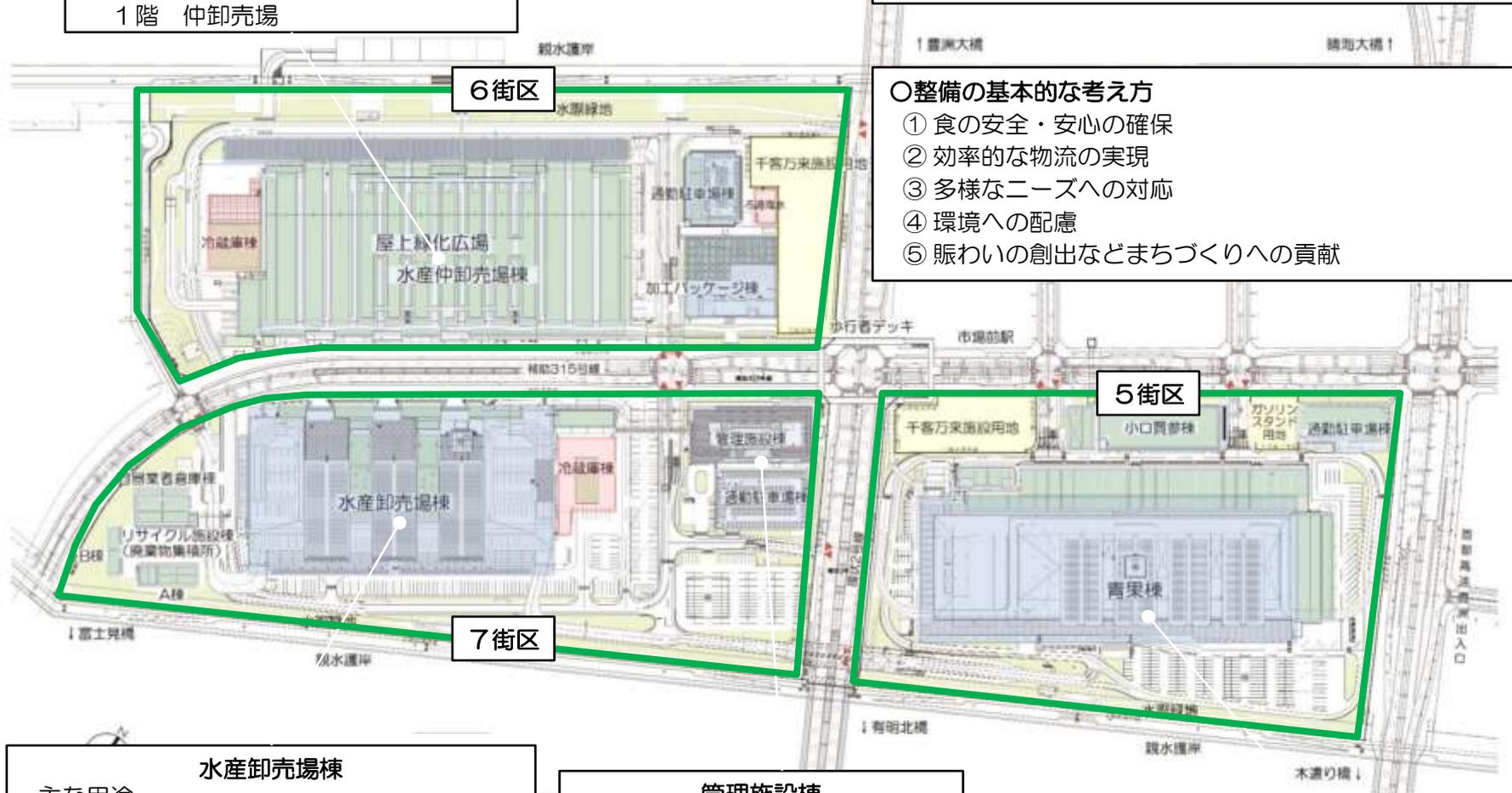
- 屋上 緑化広場
- 4階 積込場、物販店舗
- 3階 積込場、飲食店舗
- 1階 仲卸売場

○施設概要

- ・所在地 江東区豊洲六丁目6番1号（管理施設棟）
- ・敷地面積 約40.7ha（千客万来施設用地等を含む）
※築地市場 約23ha

○整備の基本的な考え方

- ① 食の安全・安心の確保
- ② 効率的な物流の実現
- ③ 多様なニーズへの対応
- ④ 環境への配慮
- ⑤ 賑わいの創出などまちづくりへの貢献



水産卸売場棟

主な用途

- 4階 転配送センター
- 3階 塩干卸売場
- 2階 うに卸売場
- 1階 卸売場、活魚売場

管理施設棟

主な用途

- 3階 飲食店舗
- 2階 防災センター
- 1階 講堂

青果棟

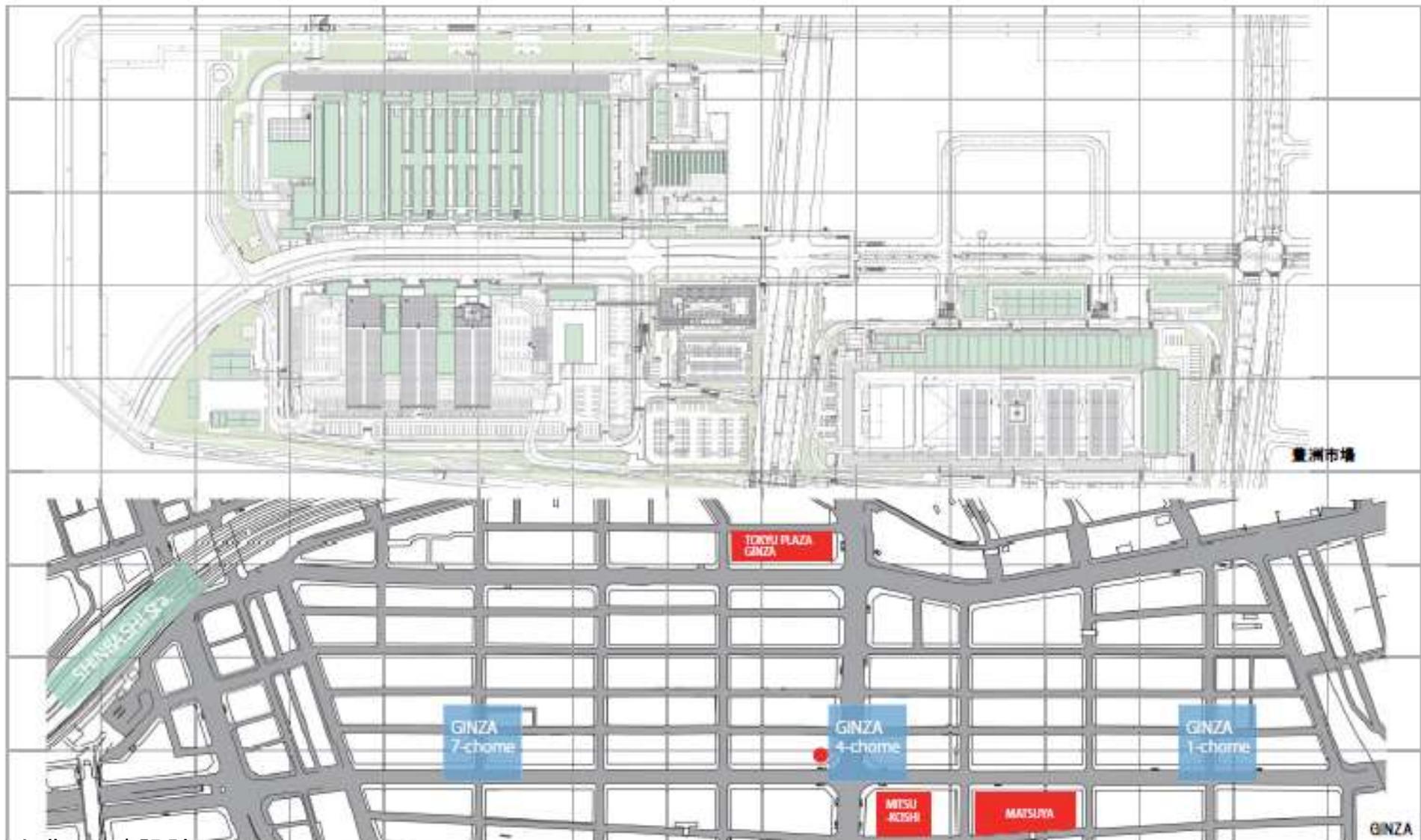
主な用途

- 3階 加工パッケージ施設、荷捌場
- 1階 卸売場、仲卸売場、小口買参積込場

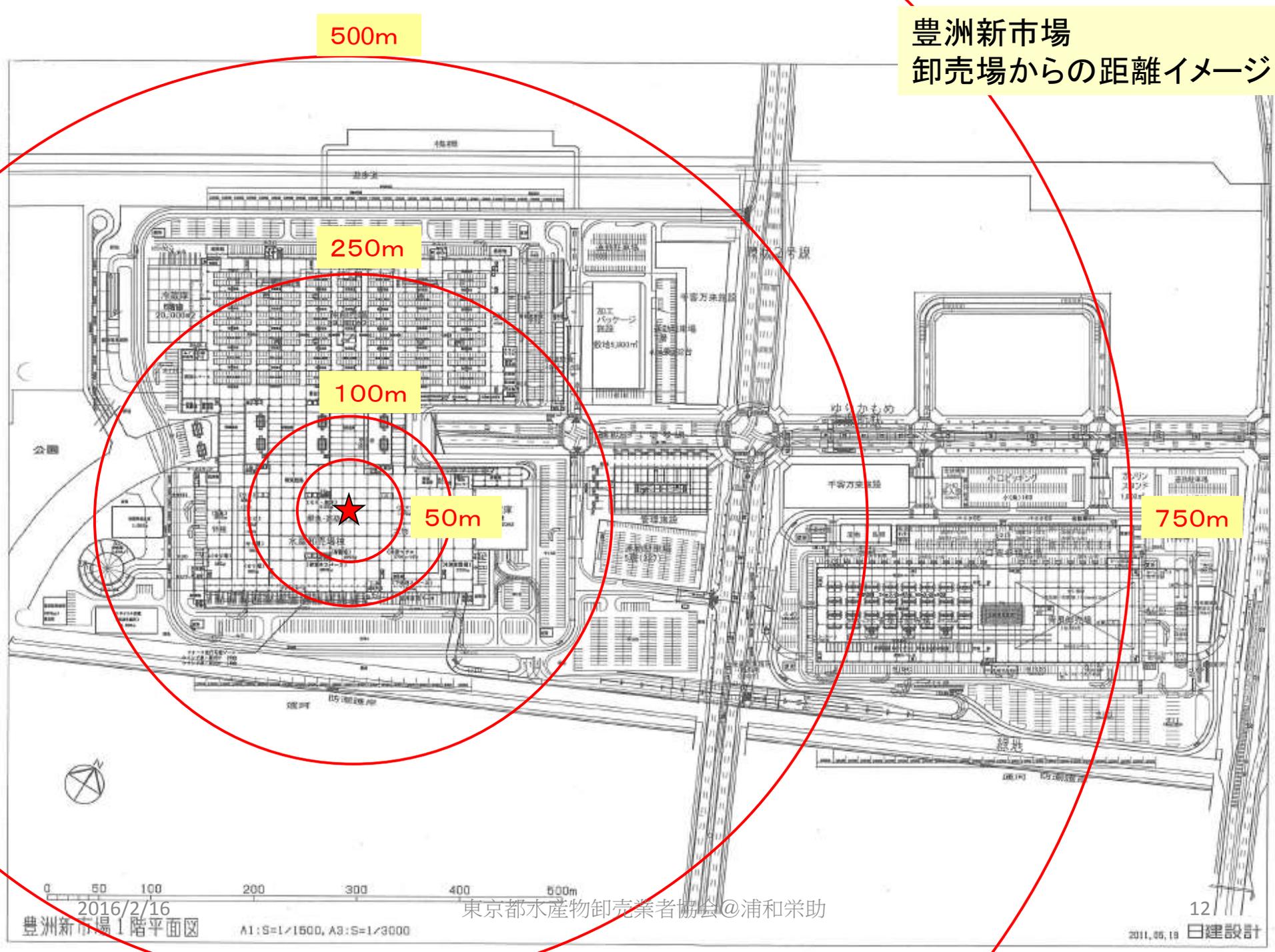
●築地市場と豊洲市場の比較

	築地市場	豊洲市場
敷地面積	23ヘクタール	40.7ヘクタール
施設条件	開放型・一部高床 荷捌場はほぼ常温	完全閉鎖型・高床式 (青果平床)・バース式 温度管理7街区10.5℃ 6街区25℃・5街区23℃
施設配置	水産・青果一体型	水産卸・仲卸・青果3分割
運用	平面的運用	立体的運用 7街区は1F⇔3F⇔4F
情報連携	各企業の部分最適	入退場管理等共通の プラットフォームの構築 場内LANの構築

豊洲市場の規模



豊洲新市場 卸売場からの距離イメージ



500m

250m

100m

50m

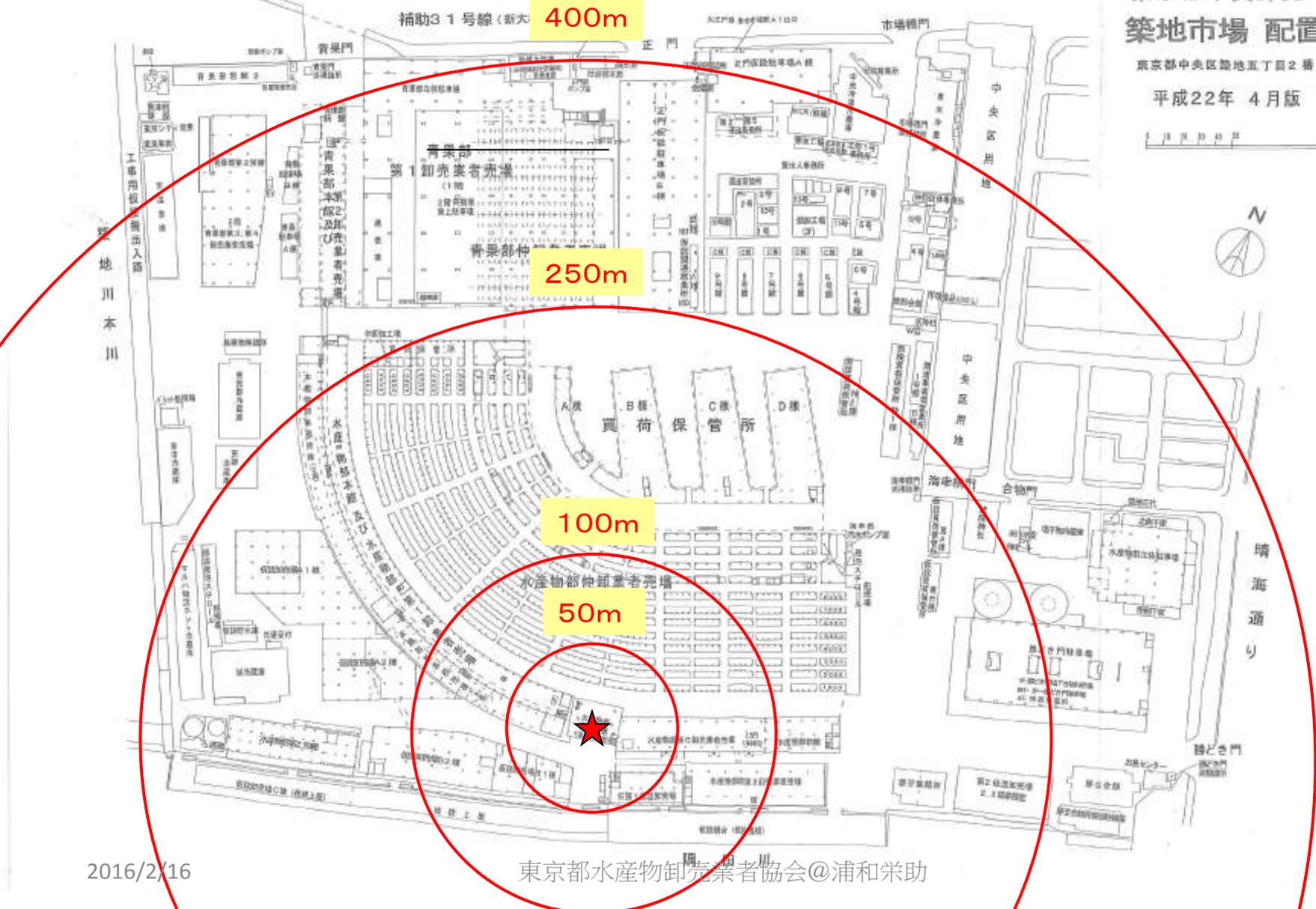
750m

築地市場 卸売場からの距離イメージ

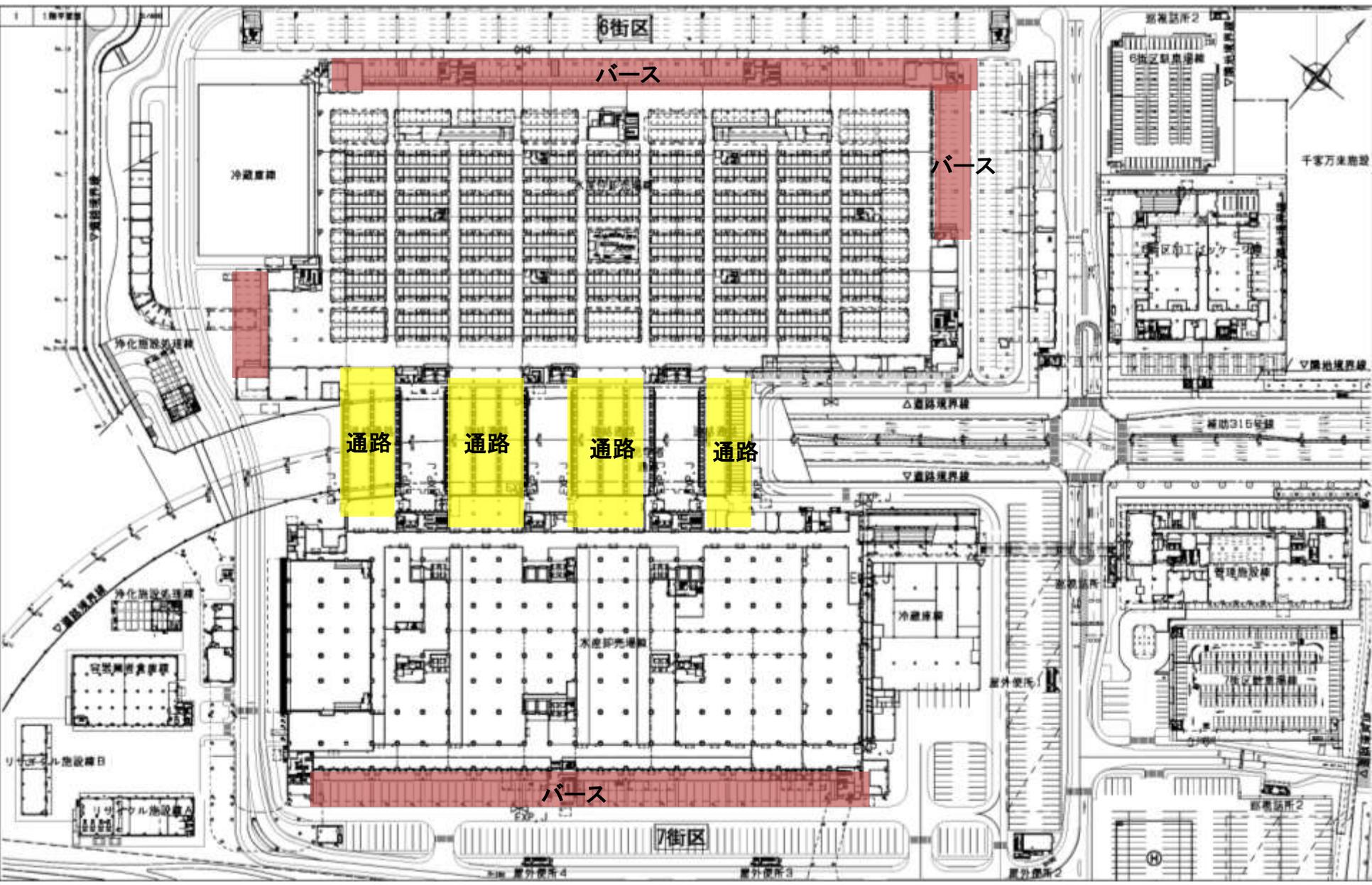
東京都中央卸売市場 築地市場 配置図

東京都中央区築地五丁目2番1号

平成22年 4月版



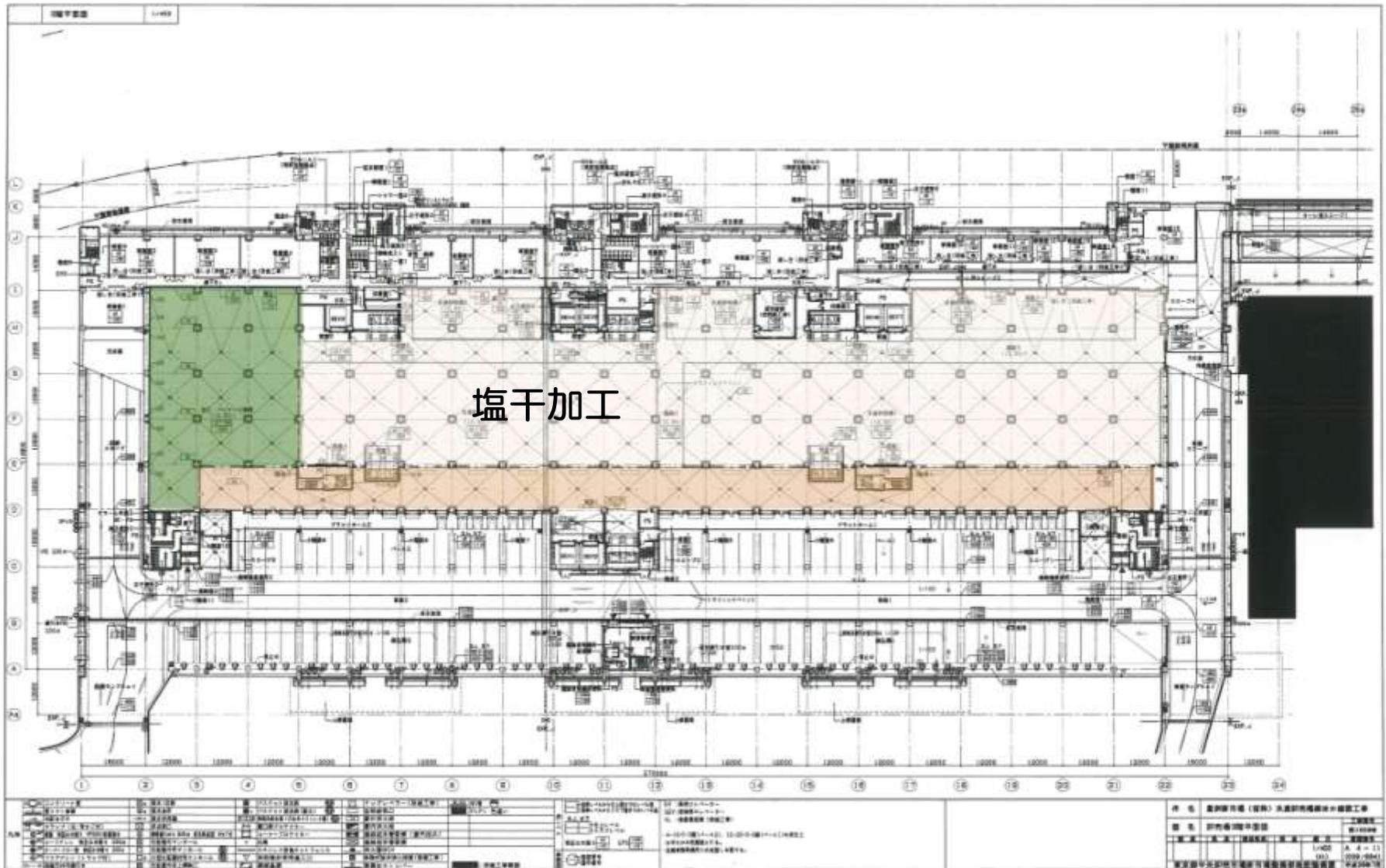
6・7街区（卸棟・仲卸棟）の配置



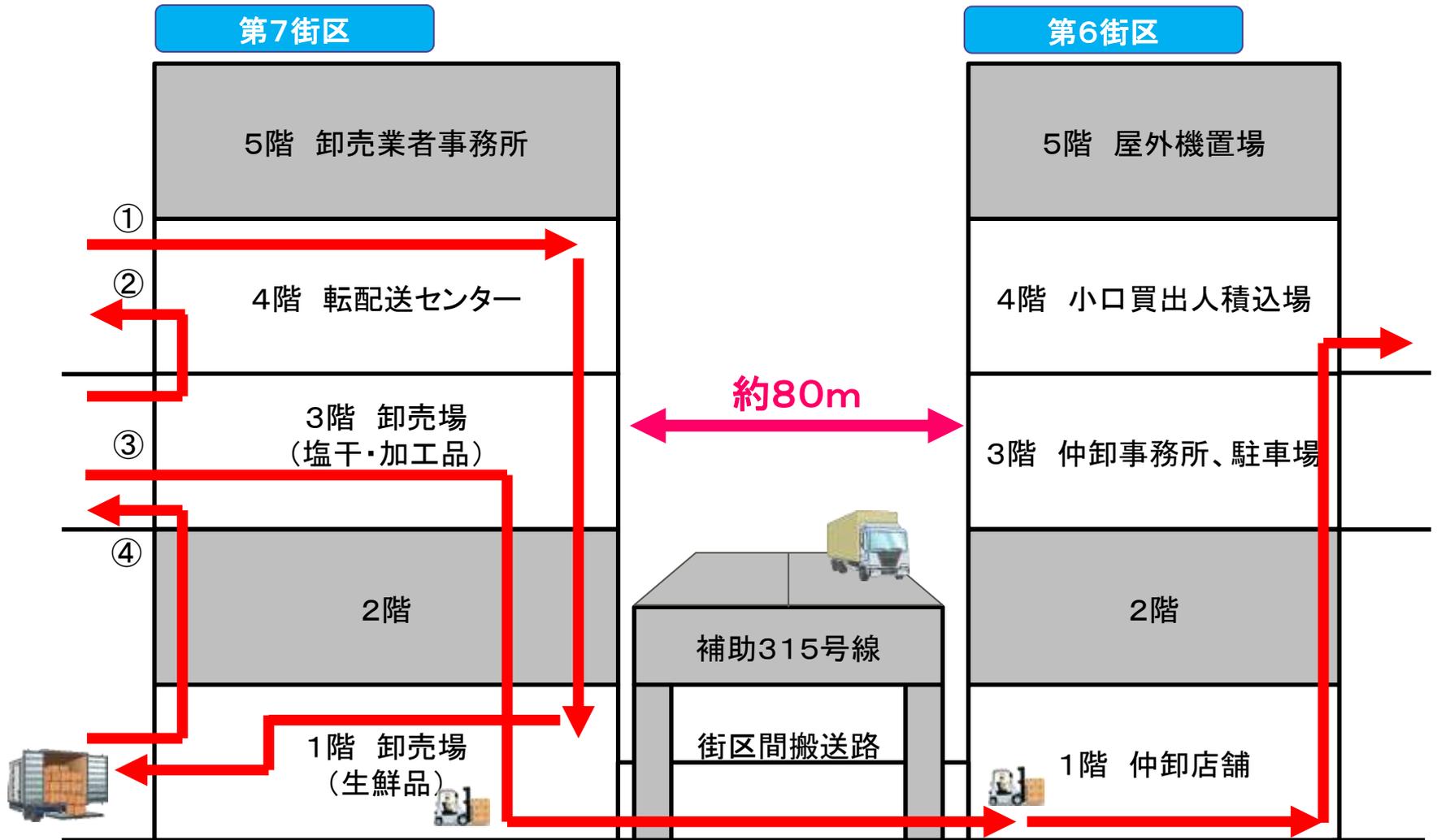
豊洲市場7街区 2F平面図 (卸売場色分け)



豊洲市場7街区 3F平面図 (卸売場色分け)



新市場で想定される垂直物流動線



- ① 転配送センター入荷→切り場出し→販売後7街区1Fパースから出荷(買参人等)
- ② 7街区3F入荷→転配送センターから出荷
- ③ 7街区3F入荷→仲卸店舗に出荷→買出人積込場より搬出
- ④ 7街区1F入荷→7街区3Fパースより出荷(買参人等)

豊洲市場の物流上の課題

1. 搬送距離が長い

315号線下の約100m通路

2. 垂直方向の搬送

7街区～3層（1F・3F・4F）

垂直搬送機12台・人荷用EV7台・スロープ1本

6街区～2層（1F・3F）

人荷用EV6台・スロープ3本

3. 閉鎖高床式構造

現在のターレ方式の搬送のみでは成り立たない。

4. 買受人の駐車場所が決定するのに時間がかかる。

今後、管理主体を組織化して、割振りをする。

特に7街区の割り振りをどうするか？

（6街区は買荷保管等が管理）

豊洲市場の物流の考え方

豊洲新市場の構造的特徴に合わせて、卸の場内物流も根本的に築地市場で行われている方法から変更していく必要がある。



入荷から引取・配達までの一元的一貫物流の実現

事前入荷情報・販売情報の集約

場内物流作業の共同化 ⇒ 共同物流会社の設立

搬送機器類の開発

⇒ ターレ・フォークの他、かご車・台車の検討

ご清聴ありがとうございました